

日立市立学校適正配置基本方針（素案）に関する意見募集の結果

1 募集期間

平成 29 年 10 月 20 日（金）から 12 月 26 日（火）まで

2 意見提出人数

34 人（うち 1 人は非公開希望）

3 意見等と教育委員会の考え方等

No.	お住まいの学区	意見等の要旨	教育委員会の考え方
1	中小路小	<p>(1) 中小路小の廃校案に反対する。</p> <p>町の中心部から流出を止め、人を集めたいと考えているのであれば、なぜ小学校を廃校するのか。中心部に学校が無くなったら、益々人が集まらない。</p> <p>(2) 就学先について選択肢を持たせてほしい。</p> <p>就学前に複数の小学校を見学した。同じ公立の小学校でもかなり違いがあることが分かった。大規模校、小規模校ともにメリット・デメリットがある。選択肢を持たせてほしい。</p>	<p>(1) 現時点では、中小路小を含めて、具体的な学校の統廃合に関する案はありません。中小路小を始め、各学校がどうなるのかについては、平成 30 年度に策定予定の「基本計画」の中で明らかにする予定です。</p> <p>なお、本年度（H29）検討しているのは「基本方針」です。基本方針には、本市が目指す学校規模、学校適正配置に取り組む上で留意すべきことなど、基本計画を検討するための基本的な考え方をまとめます。</p> <p>(2) 児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、一定の児童生徒数が確保されていることが望ましいと考えます。また、教育機会の均等の視点から、学校規模を標準化することを目指す必要があります。このような考えのもと学校適正配置に取り組み、どの学校に就学しても、同じ様なより良い教育環境で児童生徒が学べるようにしたいと考えています。</p>

		<p>(3) 中小路小を特認校にしてはどうか。</p> <p>町の中心部にあるという利便性を活かさないか。近くの英会話教室から講師を招き、低学年から英語に親しめるようにするなど魅力ある取組を進めてはどうか。</p>	<p>(3) 御提案のように、地域の様々な資源、特長、強みを活用して学校の魅力を高めることは非常に大切なことだと思います。参考にさせていただきます。</p> <p>また、特認校に関する御提案については、次のとおりです。</p> <p>特認校制度は、特定の学校について、市内のどこからでも通学できる「学校選択制」の形態の一つで、本市においては、平成 25 年度から中里小・中学校で導入しています。導入した理由は、中里小・中学校が他の小・中学校と離れて立地し、統合等により学校の適正規模を確保することが困難な環境の中、児童生徒数が大きく減少してきたためです。</p> <p>本市においては、居住地で学校を決める「学区制」を原則としていること、そして、文部科学省が公表している情報によると、市内全域を学区とすることで、①学校と地域の連携が希薄になる。②通学距離が相当長くなる。などの課題もあることから、新たな地域での特認校制度の導入は、慎重な対応が必要と考えています。</p>
2	仲町小	<p>(1) 仲町、平沢学区に住む保護者である。小中学校ともに適正規模ではない学区である。これから学校がどうなるのか心配なので、来年検討される基本計画（素案）には、具体的な学校名、時期は出してほしい。</p> <p>(2) 保護者アンケートは、各学校に「マチコミ」があるので利用できないか。</p>	<p>(1) 地域懇談会においても、保護者を中心に、同様の「不安な声」を多くいただきました。将来の見通しが立てられるように、平成 30 年度に策定予定の「基本計画」において、学校適正配置の全体像を示した上で、今後おおむね 10 年間に取り組む個別具体的な内容をお示しいと考えています。</p> <p>(2) 御提案ありがとうございます。参考にさせていただきます。</p>
3	坂本小	<p>坂本学区で小 5、中 1 の子を持つ母である。</p> <p>(1) 日立市の人口を考えたとき、重要なのは商業施設よりも、子どもを育てる教育環境の充実である。坂本中は、先生の手薄感、部活動の選択肢が少ない、校舎が古い等、決して満足のいく教育環境ではない。その学校へ下の子も入学させるべきか悩んでいる。</p> <p>(2) アンケートに答えた記憶が無い。坂本学区も実施したのか。</p>	<p>(1) 学校適正配置の取組については、将来にわたって、子どもたちのより良い学習環境を整備するために進めているものです。</p> <p>これからも、このような子育て世代の皆さんの想いや願いをしっかりと受け止めながら取組を進めます。</p> <p>(2) 坂本学区（坂本小及び坂本中）でも実施しています。ただし、保護者全員を対象としたものではありません。対象は、原則として、小学生の保護者は 1、3、6 学年の各 1 学級、中学</p>

			<p>生の保護者は2学年の1学級です。</p> <p>ちなみに、保護者全体では合計2,694人にお願ひし、回収率91.5%、人数にして2,464人と、大変多くの保護者に御協力いただいたところです。</p> <p>なお、東小沢小、中里小、山部小そして特別支援学校については、他校と比べて保護者数(サンプル数)が少ないため、全員を対象としています。</p>
4	滑川小	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は、社会に出て行く人としての根幹を造り上げる。子どもにとって、学校の役割は大きい。 ・中学生の我が子に「学校って何？」聞いたところ、「勉強と人間関係ぜんぶ。」という答えがすぐに返ってきた。 ・学校で学ぶのは勉強だけではない。社会性も協調性も一定数の人数いる集団生活だから学べる。今後、学校の統廃合が進むのは止むを得ない。 ・そうなれば、スクールバスの運行、緊急時の避難場所を確保するなど課題は多くある。大人の検討だけでなく、主役である子どもたちの声を聞く必要もある。 	<p>学校の役割については、基本方針(素案)においても、「義務教育の9年間は、大人へと成長する、或いは、人としての土台を作る大切な時期であることから、子どもたちが知識や学力だけでなく、コミュニケーション能力や、多様な価値観、社会性、豊かな人間性などをバランスよく身に付けることが重要であること。そのため、学校は本来、一定の児童生徒数が確保されていることが望ましい。」と考えをまとめたところです。</p> <p>子どもたちの声を聞くことについては、聞き方次第では、子どもたちを不安な気持ちにさせてしまうこともあるため、細心の注意が必要です。</p> <p>現在のところは、私たち大人が責任を持って、子どもたちのより良い学習環境を整えることが基本であると考えています。そのためにも、御意見の中にありますように、日常の会話の中などでお気づきになったお子さんの気持ちなどをお寄せいただければと思います。</p>
5	会瀬小	<p>P T A役員としての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P T A組織が統合することになれば、役員に相当な負担が掛かるため、役員選出は益々困難となる。統合のためのガイドラインやマニュアルがあると有難い。 ・ P T A組織の統合に関し、想定される問題点を以下のとおり抽出した。 	<p>実際の P T A活動を通してお気づきになった、より具体性の高い貴重な御意見として、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>今後、実際に学校統合を行うことになった場合は、他市町村の先行事例などを調査し、P T A組織の統合に関する参考情報を提供していきたいと考えています。</p> <p>(参考)</p> <p>P T A活動に関する意見については、アンケートや地域懇談会でも寄せられています。</p>

		<p>(1) 統合のための事前検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政主導か、PTAだけでやるのか？ ・検討する骨子などがあったほうが望ましい。 <p>(2) 現行役員の扱い（統合に伴う重複の対応方法）</p> <p>(3) 役員定数の調整（統合相手と違いがある場合）</p> <p>(4) 組織及び活動内容のすり合わせ</p> <p>(5) 会則の見直し</p> <p>(6) 役員・委員の選出方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの学校でも役員・委員の選出は難航している。統合により、今以上に難航するのが必至。 <p>(7) 会費の扱い（金額の相違調整、繰越金の扱い）</p>	<p>御意見の中にあるように役員のなり手が少なくなっている一因として、PTAの会員数が減り、保護者1人当たりの負担が増えていることがあります。特に小規模校になると、負担がさらに増え、共働きや一人親世帯の方にとっては、協力したい気持ちはあっても、例えば立哨当番への対応回数が増えれば仕事を休まざるを得ないなど、負担がより大きくなっていると意見も寄せられています。</p>
6	<p>中小路小</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・転勤で他県より転入してきた。以前住んでいた地域の小学校は5クラスあった。中小路小が1クラスしかないので迷ったが、通勤や利便性を考え幸町を選んだ。 ・日立駅付近にファミリー向け賃貸住宅が少なく、若い世代が入ってこない一因となっている。小学校が廃校になると、益々人の入ってこない地域となる。 ・小学校の廃校は反対ではない。廃校が決まったら、益々子どもの数が少なくなる前に速やかに実行してほしい。また、治安が悪くならないように廃校舎を取り壊し、利活用を早 	<p>中小路学区に関する子育て世代の視点からの御意見をいただきありがとうございます。</p> <p>学校をどうするのか決定した場合は速やかに対応してほしいとの御意見については、決定したことを速やかに実施することが、何よりも子どもたちのためであるとの観点から、教育委員会としても同様の考えです。</p> <p>一方で、統合する場合、新しい学校の校舎を整備すること、通学路の安全点検・安全対策を講じることのほか、学校名をどうするのか、地域コミュニティやPTA組織の在り方など、準備・調整することが多く、ある程度の時間が必要となることも御理解ください。</p> <p>子育て世代を呼び込むことについては、大変難しい問題です。御指摘のあったファミリー向け住宅の供給にしても、行政だけで解決できる問題では無く、市としても少子化対策に取り組んでいます。短期間で解決していくことは大変難しい状況です。</p>

		<p>く進めてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに決定できない場合、まずは子育て世代が入ってくるような策を講じてほしい。 	<p>教育委員会としては、学校の小規模化を踏まえて、また、学校を取り巻く将来の状況を展望しながら、学校適正配置の検討をしっかりと進めることが大切だと考えています。</p>
7	滑川小	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化が進む中で、学校の統廃合は避けられない。 ・学校は、勉強だけでなく人間形成の大切な場所である。是非、幅広く豊かな教育が受けられるように、余裕のある教員配置、教育環境を整えてほしい。 	<p>学校適正配置の取組は、将来にわたって、子どもたちのより良い学習環境を整備するために進めているものです。</p> <p>お寄せいただいた想いや願いをしっかりと受け止めながら取組を進めます。</p>
8	中小路小	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校はクラス替えができないなどの理由から、1学年当たり2～3学級が望ましいというような基準を伺った。 ・しかし、小規模の小学校には先生の目が行き届くなどの少人数ならではの良さがある。 ・もし、この方針が早い段階で決定されるとなると、在学中に、近隣の小学校に分かれて通う、転校しなければならないということにならないか、とても不安を感じている。 	<p>小規模校には、御意見にありますように「先生の目が行き届く」ほか、「学校行事などで活躍の場が増える」などの良さがあります。一方で、「人間関係が固定化しやすい」「男女比が著しく偏ることが多い」「多様な考えに触れ、自分の考えを深めることが難しい」など、学校の努力だけでは克服することが困難な課題があることも事実です。</p> <p>市民を対象に実施したアンケート調査においては、1学年当たり2～3学級程度が良いという回答が最も多いという結果が出ています。その理由を見てみると、「クラス替えにより幅広い人間関係作りができる」、「社会性や協調性を養う機会が増える」とする回答が多く寄せられていることから、市民の皆さん（保護者、教職員含む。）の意識としても、可能であれば、ある程度の規模を確保することが理想的だと思っていることの現れと理解しています。</p> <p>また、学校の規模によっては、学習形態の多様さ、クラブ活動や部活動の種類などが制限される場合もあり、教育機会均等の視点からも、できる限り、学校規模を標準化することを目指す必要もあります。</p> <p>これらのことなどを踏まえて、学校適正配置検討委員会で検討した結果、本市全体の基準として、小学校では1学年当たり2学級、中学校では3学級としてまとめていただいたところで</p> <p>さて、仮に在学中に学校の統廃合が実施されることが決定した場合の対応については、非常に難しい問題ですが、例えば、統合前に十分な交流を進めるなど、他市の先進的な成功事例を参考にしながら、学校はもとより、保護者や地域住民の皆さんと協議しながら、何よりも、子</p>

			どもたちに負担を掛けないように慎重かつ円滑に進めていきたいと考えています。
9	中小路小	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5歳と2歳の子供がいるが、中小路小が無くなると聞きびっくりした。 ・ 地域懇談会に出席した際、「小から大に移るのでなく、大から小に移ればいいのか？」という意見が出て共感した。また学区の見直しをしてもよいと思う。 ・ 2人の子どもは中小路小に通わせたい。勝手な意見だとは思いますが、どうぞよろしくお願いしたい。 	<p>現時点では、中小路小を含めて、具体的な学校の統廃合に関する案はありません。中小路小を始め、各学校がどうなるのかについては、平成30年度に策定予定の「基本計画」の中で明らかにする予定です。</p> <p>なお、本年度（H29）検討しているのは「基本方針」です。基本方針には、本市が目指す学校規模、学校適正配置に取り組む上で留意すべきことなど、基本計画を検討するための基本的な考え方をまとめます。</p> <p>「大きい学校から小さい学校に移ればいいのか？」という御意見は、学校の適正規模を確保する方法についての御意見ですが、御提案のとおり、方法は一つだけではなく、いくつか考えられます。</p> <p>学校によって周辺の環境が違うこともありますので、御提案の学区の見直しも含めて、対象となる学校に合った方法を保護者や地域住民の皆さんとともに検討していきたいと考えています。</p> <p>なお、いずれの方法も両校の保護者の気持ちや思いもありますので、丁寧な協議が必要となります。</p>
10	助川小	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校にも良さがある。統廃合はせずに、小中大規模校それぞれにしかできないことや、それぞれの良い部分を伸ばしていった方がよい。 ・ また、統廃合で通学距離が長くなり、安全面の不安や子供達の肉体的不安、途中で学校を変わることによる精神的な負担も出てくるので現状維持が良い。 	<p>御意見にありました「各学校の特長を伸ばすこと」は非常に大切なことだと思います。しかし、No.8でお示したように①小規模校には良い面がある一方で課題もあること、②教育機会の均等の視点からできる限り学校規模の標準化を目指す必要もあることなどから、まずは、教育の土台となる学校の規模を一定程度確保した上で、それぞれの地域性や学校の特長を活かした教育活動を伸ばし、より充実させることが大切と考えます。</p> <p>各学校がどうなるのかについては、平成30年度に策定予定の「基本計画」の中で明らかにする予定です。</p> <p>この基本計画の検討については、素案の段階から地域懇談会などを通じて、市民の皆さんとともに意見交換しながら進めていく考えです。</p> <p>通学時の安全等の確保や、環境変化に伴う子どもたちの精神的な負担軽減については、非常に大切なことと考えています。これらを踏まえながら、今後お示しする具体案をもとに改めて</p>

		<ul style="list-style-type: none"> もし、将来極少人数になってしまい、学校運営が難しくなった時には、在校生は新しい学校に転校することなく、その学校で卒業できるようにしてほしい。 	<p>御意見を伺いたいと考えています。</p> <p>仮に在学中に学校の統廃合が実施されることが決定した場合の対応については、非常に難しい問題ですが、例えば、統合前に十分な交流を進めるなど、他市の先進的な成功事例を参考にしながら、学校はもとより、保護者や地域住民の皆さんと協議しながら、何よりも、子どもたちに負担を掛けないように慎重かつ円滑に進めていきたいと考えています。</p> <p>御意見のように、その学校を卒業できるようにしたいというお気持ちも十分理解できます。ただし、在校生が全員卒業するまで待つということは、最後に残った学年は卒業式も、卒業までの学校生活も6年生だけでやることとなります。上の学年が順次卒業していけば、全校の児童数が減少し、運動会や文化祭など、学校行事をどのように実施するのかなどの課題が生じます。こういったことも踏まえて、十分な検討、協議を重ねていくことが必要だと考えます。</p>
11	中小路小	<ul style="list-style-type: none"> 中小路小に通う子と同幼稚園に通う子がいる。中小路小は、絶対廃校になってはいけない。中小路学区がいいと3年前に家を建てた。そんな方はたくさんいる。 中小路学区は、地域やPTAの方が子どもたちの見守るすばらしい地域である。 中小路小には100人以上も小学生がいるのではないか。 心から、2人の我が子を中小路小の卒業生にしてほしい。 	<p>現時点では、中小路小を含めて、具体的な学校の統廃合に関する案はありません。</p> <p>中小路小には100人以上も小学生がいるのではないかということですが、考えていただきたいのは、将来、その人数が減っていくということです。10年後の推計では24%の減少が見込まれており、実際の児童生徒数も、この推計値とほぼ同じ推移をたどっています。</p> <p>現在検討しているのは、そのような将来を見据えて、今からできることを準備するためです。各学校がどうなるのかについては、平成30年度に策定予定の「基本計画」の中で明らかにする予定です。</p> <p>なお、この基本計画については、素案の段階から地域懇談会などを通じて、市民の皆さんとともに意見交換しながら進めていく考えです。</p>
12	中小路小	<ul style="list-style-type: none"> 現在、小学2年生と幼稚園の子がいる。 単学級ならではの良いところ（メリット）もたくさんあるので、学校の特性を大事にしていきたい。 	<p>御意見にありました「各学校の特性を大事にすること」は非常に大切なことだと思います。しかし、No.8でお示したように①小規模校には良い面がある一方で課題もあること、②教育機会の均等の視点からできる限り学校規模の標準化を目指す必要があることなどから、教育の土台となる学校の規模を一定程度確保した上で、それぞれの地域性や学校の特長を活かした教育活動を伸ばし、より充実させることが大切と考えます。</p>

		<p>・また、環境を変えること（転校）はもちろん、通学路の安全性や通学距離など、子どもたちにとって心身の負担になることのないように配慮していただきたい。</p> <p>・極少人数になり、統合せざるを得ない状況になるまでは、子どもの人数を維持できるよう学区の見直しや、若い家族が住みやすい環境作りをお願いしたい。</p>	<p>通学時の安全確保や環境変化に伴う負担軽減などについて、十分配慮しながら進めていく考えです。本年度（H29）検討している基本方針には、本市が目指す学校規模のほか、学校適正配置に取り組む上で留意（配慮）すべきことなども明らかにする予定です。</p> <p>若い家族が住みやすい環境作りについては、本市でも、子育てを支援する取組を始め、雇用創出事業や本市への転入を促進する事業など、様々な取組を進めていますが、すぐに結果に結びつくものばかりではなく、短期間で解決していくことは大変難しい状況です。</p> <p>教育委員会としては、そういった子育て支援の対策などを講じながらも、学校の小規模化を踏まえて、また、学校を取り巻く将来の状況を展望しながら、子どもたちのために学校適正配置の検討をしっかりと進めることが大切だと考えています。</p>
13	中小路小	<p>・現在、中小路小に第一子を通わせている母である。中小路小が廃校の可能性があると聞き、大変驚き、またそうならないようにしたいと思っている。</p> <p>次の12項目の回答をお願いしたい。</p> <p>(1) 人口減少の対策をどのようにしているのか？していくのか？</p> <p>(2) 以前とったアンケートは誘導尋問のように受けるので改めて、実際対象になりうる</p>	<p>現時点では、中小路小を含めて、具体的な学校の統廃合に関する案はありません。中小路小を始め、各学校がどうなるのかについては、平成30年度に策定予定の「基本計画」の中で明らかにする予定です。</p> <p>なお、この基本計画については、素案の段階から地域懇談会などを通じて、市民の皆さんと共に意見交換しながら進めていく考えです。</p> <p>(1) 人口減少及び少子化は、全国的な問題であり、国、地方ともに取り組んでいる大きな行政課題です。本市においても、現在、転入促進や転出抑制のための取組、雇用創出、そして、子育て支援の取組を進めるなどして対応しているところですが、この問題を短期間で解決していくことは大変難しい状況です。</p> <p>そのような状況の中でも、学校の小規模化が今後さらに進むことが予想されることから、市全体として人口減少及び少子化対策を講じながらも、子どもたちの学習環境をより良くするため、学校を取り巻く将来の状況を展望しながら、学校適正配置の検討をしっかりと進めることが大切だと考えています。</p> <p>(2) 子どもたちへのアンケートについては、No.4のとおりです。</p> <p>御指摘のアンケートは、教職員全員を対象としています。</p>

	<p>学校の生徒、先生に、外部が作成したアンケートを取るべきではないか？</p> <p>(3) 人口減少は全国的に起こっているので、1クラスの人数自体を見直すべき。また先生の配置も今後の教育方針が大きくかわっていくので特化した先生を配置するなど人数が必要だと思うが、クラスの人数の見直し、先生の配置人数の見直しをしないのか？</p> <p>(4) 中小路小を含め、学区の見直しをするべきなのではないか？考えていないのか？</p> <p>(5) 中小路コミュニティのような防犯面でのサポートや、日立の伝統やよさを教えてくれるようなコミュニティと密接な学校は中小路小学校しかないと思っているが、そのような学校をなくす必要がなぜあるのか？</p>	<p>また、同アンケートでは、御自身の子どもが通う学校（御自身が勤務する学校）に関する質問（問 13）を設け、一般論だけでなく、できるだけ身近な学校の実態、現状を踏まえた意識を把握できるよう工夫したところです。その結果として、保護者、地域住民、教職員の皆さんが理想とする学校の規模の方向性などが見えてきたものと考えています。</p> <p>(3) 1クラスの人数は、国・県の基準等で定められています。また、教員の配置もクラス数に応じて定められています。</p> <p>1クラスの人数に市独自の基準を設けることは可能ですが、その場合は市独自で教員を雇用することになり、将来にわたって財政上の負担が生じます。厳しい財政状況の中で、市独自で基準を設け、教員を安定的に雇用し続けることは現実的に難しい状況です。</p> <p>(4) 学区の見直しは、隣接する学校間の児童生徒数の不均衡を是正するための方法の一つとして考えられます。学校を取り巻く環境は変わって行きますので、学校区を柔軟に変えるということは、ある意味において、理にかなっていることと思います。</p> <p>しかしながら、一方で配慮しなければならない問題もあります。特に小学校区は、地域活動エリアと密接に関連しているため、学区見直しによる影響が少なからず発生します。そのようなことを多面的、総合的に勘案しながら検討していきたいと考えています。</p> <p>また、そもそも子どもたちが少なくなっている、そして、今後もその傾向が続くということが問題の本質です。10年後には24%の減少が見込まれているので、学区によって状況は異なりますが、学区の見直しだけでは、どちらの学校も小規模になってしまい抜本的解決にならない場合もあります。</p> <p>(5)、(6) 繰り返しになりますが、現時点で、中小路小を含めて、具体的な学校の統廃合に関する案はありません。</p> <p>御紹介のあった中小路学区コミュニティや中小路小の取組は大変素晴らしいことだと思います。是非、今後も続けていただき中小路地区ならではの良さを多くの方に広めていただければと思います。</p>
--	--	--

	<p>(6) 校長先生をはじめ先生方が学校の外でも守ってくれる、天候不良の際に子どもの安全を真っ先に考えるだけでなく、子供の安全を親に即伝えてくれる中小路小学校をなくす必要がなぜあるのか？</p> <p>(7) 助川中学校、宮田小学校しか視察をしていなかったのはなぜか？中小路はじめほかの学校も視察するのか？</p> <p>(8) 学校が無くなるとなった場合、子供の心に与える影響がとても心配である。自分は、小中学校で多くの転校経験がある。以前自分がカウンセリングを受けた際、その影響が成人しても続くことを知った。子どもの心のケアを、成人になるまでやれるのか？その覚悟はあるのか？</p>	<p>(7) 学校の視察は、学校適正配置検討委員会の委員の皆さんに、学校現場を見ていただく目的で実施しました。児童生徒の学校生活の様子から学校の現状を把握し、子どもたちにとってより良い学習環境を検討する上での参考とするためです。</p> <p>助川中と宮田小を選んだのは、主に同検討委員会の会議運営上の時間的な制約からです。多くの学校を視察することは現実的に難しいため、教育プラザの近くで、本市の平均的な規模である両校を選定しました。</p> <p>なお、小規模校や大規模校は視察しませんでした。検討委員会の委員のうち、保護者代表には、小規模、大規模両方の小・中学校から参加を得ていること、また、アンケート結果について、小規模校から大規模校までの結果を会議の資料として示すことなどによって、規模の違いによるそれぞれの良い点、悪い点などを踏まえた議論は十分できたものと考えています。</p> <p>(8) 子どもたちの心のケアについては、学校適正配置検討委員会の中でも議論されました。委員（保護者代表）の中に、小学生時代に3回転校した経験を持つ方がおり、御自身の経験から、「特に支障があったとは思わない。子どもは順応性が高く、周りが心配するほどではない。心配し過ぎるのも問題だ。」との意見がありました。受け止め方や考え方は個人で異なるようです。また、学校統合を経験した児童生徒に対し茨城県が行った調査（平成 23 年1月）では、「友達と仲良くなれるか心配したが、すぐに友達になれた。」という項目に対し、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童が81%となっています。</p> <p>仮に統合することになった場合、先生、友だち、校舎、通学路など児童生徒を取り巻く環境が大きく変わります。大人でも、職場などが替わった場合には、不安な気持ちやストレスを感じますから、子どもたちが不安に思う気持ち、成長への影響が懸念され、御意見のように心配される気持ちは当然のことと思います。教育委員会としても、統廃合を行うのであれば、新た</p>
--	--	--

	<p>(9) 学校が無くなるとなった場合、避難所はどうするのか？建物だけあっても人がいなければ何もできないが対応できるのか？日立市の政策では中心地にお年寄りが多くなるが、お年寄りが遠くまで避難できないのは考えていないのか？</p> <p>具体的な安全対策案を示してください。</p> <p>(10) 自宅学習が減る影響で、統廃合された学校の子供の学力が落ちるといったデータがあ</p>	<p>な環境・人間関係に順応することが難しい子どもたちへのケアが必要と考えているところであり、現在策定作業を進めている「基本方針」の中でも、取組を進める上での留意事項の一つとして、位置付ける予定です。</p> <p>具体的な対応策として、今後、学校を統廃合する場合には、子どもたちの不安を取り除くために、統合予定校相互の日常的な交流をより活発に行うこと、さらには、「心のケア」を目的とした人的配置（先行事例では、統合前の先生が引き続き統合校に配属となるように配慮することや、カウンセラー配置）などについて検討していきます。</p> <p>(9) 避難所については、まだ具体的な検討を行う段階ではありませんが、今後、学校を統廃合することを想定され、不安なお気持ちを持たれるのも当然のことと思います。</p> <p>本市では、学区の見直しや学校の統廃合などは、少なからず地域に影響を及ぼすと考えられることから、これらの課題対応に備えて、情報の共有、対応策の協議を目的として、庁内の関係部課で構成する組織を設置しています。各学校の在り方の方向性が決まれば、その組織で協議・調整し、避難所をどうするのかなどについても、担当部課が具体的に検討していくこととなります。</p> <p>平成 29 年度現在、避難所については、災害時における一時的な生活の本拠地となることから、被災者の居住地の最寄り場所に設置できるよう、市内全域に確保することとしています。具体的には、市内の小・中学校、高等学校、交流センターなど、91 施設を指定しています。</p> <p>今後、仮に学校を統廃合することになった場合でも、建物が残された場合は、引き続き活用したいと考えています。また、建物が取り壊された場合においても、新たに避難所を指定することなどを検討することとしています。</p> <p>人がいない施設では何もできないのでは？ということについては、現在本市では、避難所の近くに住んでいる市の職員が、災害時に速やかに避難所を開設できる体制を整えております。</p> <p>また、避難所の運営については、市はもとより、コミュニティや関係機関・団体、ボランティアなどの協力を得ながら、取り組んでいくこととしています。</p> <p>(10) 御指摘のデータは、ある地方自治体職員が研究論文で示されたもののようです。この研究の課題として、①データが学校統廃合の前後 1 年度分にとどまっていること、②サンプルサ</p>
--	--	--

	<p>る。どのようにフォローしてくれるのか？具体的に示してください。（参照：小学校における学校統廃合が学力に与える影響について 政策研究大学大学院 教育政策プログラム 富樫哲一）</p> <p>(11) 通学時間が長くなると、交通事故のリスクが上がる。どのように大切な子どもの命を守ってくれるのか？具体的に示してください。</p> <p>(12) 学校が無くなるとコスト削減されるメ</p>	<p>イズが4校と小さいことなどが挙げられていますが、貴重な情報として、また、統廃合に当たって、留意しなければならないこととして認識する必要があると考えています。</p> <p>また、同研究でまとめられた「提言」では、学力と相関関係がある「児童の学習時間」を確保するための取組を充実させることが望ましいとされています。統廃合を行う際には、学校と連携しながら、これらの状況を注意深く検証していくことが求められてくると考えています。</p> <p>一方、学力が上がっている事例もあるようです。具体的には、平成29年11月29日の茨城新聞に掲載された行方市の事例です。その中で、統合後に子どもと保護者を対象にしたアンケートの結果が紹介されています。学校を統合して「良かった」との回答が7割を超えるとともに、「以前より勉強をするようになった」とする回答も多かったようです。また、「前向きな成果も出ている。学力も向上してきた」との教育長のコメントも紹介されており、身近な実例で良い成果が上がっていることが分かりました。</p> <p>学校の統廃合と学力の因果関係を分析した研究などは、まだまだ少ないようですが、入手できる情報を参考にしながら、子どもたちのより良い学習環境を確保できるように努めていきます。</p> <p>(11) 通学時間が長くなることは、統合に伴うデメリットの一つに挙げられます。登下校時の十分な安全確保策が必要と考えています。現在策定作業を進めている「基本方針」の中でも、取組を進める上での留意事項の一つとして、明確に位置付ける予定です。</p> <p>具体的な対応策としては、現在、道路の管理者、警察、市が共同で設置した「通学路安全推進会議」が中心となって、毎年通学路の安全点検を行いながら、危険箇所の改善を行っていることから、この仕組みを活用し、学校、保護者、地域の皆さんと連携・協力しながら、危険箇所を点検し、安全のための改善を図っていく考えです。</p> <p>また、通学距離・時間が長くなることで子どもたちに大きな負担を強いることになってしまう場合は、スクールバスの運行についても検討が必要と考えています。ただし、スクールバスの導入検討に当たっては、他市の事例から子どもたちの体力が低下するなどの課題も出ていますので、保護者と協議しながら、慎重に進めていくことも必要です。</p> <p>(12) 本市では、財政事情のためではなく、児童生徒の学習環境をより良くするためにこの取</p>
--	---	--

		<p>リットの還元が県までしかおりてこず、市町村や各家庭は金額的負担が増えるそうである。その負担をどのようにするのか具体的な案を示して。</p> <p>今後の未来を担う子供が悲しむようなことを大人が決してしてはいけないので、子供を1番に考えて進めていただきたい。</p>	<p>組を進めています。</p> <p>コスト削減メリットは県レベルまでというのは、おそらく、学校運営に要するコストの中で大きな割合を占める「教員の人件費」の削減効果を指していると思われます。なぜなら、教員の人件費は、国が3分の1、都道府県が3分の2を負担しており、市町村は負担していないからです。</p> <p>しかし、市町村においても、学校運営に要する様々な費用負担をしています。主に校舎や体育館などのハードに要する費用のほか、光熱水費、市が直接雇用している事務職員の人件費などです。したがって、市や各家庭の負担が増えることは想定していません。</p> <p>本市では、学校の小規模化が進んでいます。問題は、学校小規模化が今後さらに進むことが見込まれているということです。10年後の推計で、児童生徒数がさらに24%減少することが見込まれている中で、「教育の基盤となる学校の適正規模の維持」という課題に直面しているのです。</p> <p>私たち大人は、この課題の解決を図り、将来にわたって子どもたちのより良い学習環境を提供し続ける責任があると考えています。</p>
14	坂本小	分校制を導入できないだろうか。即ち、小学校の低学年生は、保護者の目の届くところで学ぶことができ、また、地域の集まり場所となる学校も残せることになる。(最小規模の小学校に対応)	平成30年度に策定予定の基本計画の中で、具体的な取組の一つの方法として検討させていただきます。
15	東小沢小	・地域懇談会での説明を受け、市民の意見を聞いて基本方針策定し、その後も実行までに慎重に進めることはよくわかった。しかし、時間がかかることが心配である。東小沢地区の保護者、おじいちゃん、おばあちゃんも今後の小学校に不安を持っていることはお分かりいただけたと思う。	

	<p>(1) この不安を無くすために、早急に新一年生、およびPTAを対象にいま進めようとしていることを説明していただきたい。</p> <p>(2) 当面の処置として、久慈小、坂本小に入学してしまうことを、やめさせてください。何の理由で許可できるのか理解できない。クラス6～7名いれば地域の心配はなくなる。 →<u>減らさない対策1</u></p> <p>(3) さらに、東小沢は運動会を地域といっしょにやったり、菜の花を育てたり地域に根ざした教育をしてほしいと思っている。人数が少なくても、魅力がある教育で素晴らしい子供が育つ学校になってほしい。この為なら地域がいくらかでも協力する。 →<u>減らさない対策2</u></p> <p>(4) 先生たちも同様な不安があると思う。特に100周年の後であり、また、事故を経験したことからもかもしれない。昨年までの意欲が少し感じられない。目標が必要ではないか。</p> <p>(5) この地域は日立港、高速道路ICと広大な農地がある。農地は10年後に大規模な開発可能地域であり、日立市で唯一人口増のポテンシャルのある地域である。学校の縮小でなく、増えることも考えてほしい。</p>	<p>(1) 今後、説明の機会を作っていきます。日立市立小・中学校PTA連合会などを通して、いつ、どのような方法が良いかなどについて調整していく考えです。</p> <p>(2) 本市では、お住まいの地区で就学する小・中学校が決まる「学区制」を基本としています。しかし、御家庭の事情などから、指定学区外の小学校に就学を希望される方もあり、その場合、教育委員会が定める許可事由に照らして許可しています。</p> <p>(3) 地域に根ざした教育の推進については、教育委員会としても推奨しています。市内の各小・中学校、特別支援学校において、地域に根ざした魅力ある教育を実践できているのも、地域の皆さんの御協力の賜物です。今後も引き続き御協力をお願いします。</p> <p>(4) 平成30年度に「基本計画」を策定予定です。その中で、皆さんの不安解消に繋がるよう、東小沢小も含め、各学校が今後どのようになるのかについての具体的な計画をお示したいと考えています。</p> <p>(5) 学校を取り巻く将来の状況を展望しながら、学校適正配置の検討をしっかりと進めていきます。</p>
--	---	---

16	坂本小	<ul style="list-style-type: none"> ・ どうせ児童数が少ないから、坂本小中学校を小中一貫校にしてはどうか。 ・ 駅の近くに学校移転してはどうか。 ・ 外国人の留学生を 100 人くらい増やし、国際交流や対話運動を心がけてみてはどうか。 	<p>様々な御提案ありがとうございます。今後具体策を検討する際の参考とさせていただきます。</p>
17	大久保小	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラス規模は、教職員の目が届きやすい小規模が望ましい。 ・ 学校規模はある程度の学級数があり、クラス替えでいろんな人との関わりができることが大切だ。なじめないクラスでも、年度が替わればクラス替えがある…そう思えることも大切な支えになる。 ・ P T A は、ある程度人数がいる方が活動しやすく、各々への負担が軽減される。働いている親でも参加しやすい P T A であってほしい。 ・ 学校が小規模化している時は、縦割りで活動する時間を作る等、いろんな関わりができる機会を設けることも大切だと思う。 ・ 一番望むことは、どの子も、学校において居場所が得られる方針であってほしいということ。 	<p>様々な御意見ありがとうございます。今後具体策を検討する際の参考とさせていただきます。</p> <p>学校適正配置の検討は、将来にわたり、子どもたちのより良い学習環境を整えることを第一に進めていきます。</p>
18	田尻小	<p>(1) 適正な規模について、アンケートでは、一般的に「大き過ぎず、小さ過ぎず」が良いだろうと思い小学校 1 学年 3 クラスぐらいと答えた。しかし、だからといって、大きい学校、小さい学校をそれに合わせたいとは誰が希望するのか。それぞれのデメリットをよ</p>	<p>(1) 御意見のとおり、一番大切なことはデメリットをより良く改善していくことだと思います。そのための方法、アプローチの視点はいろいろあると思いますが、本市では学校の小規模化が今後さらに進むことが見込まれていることや、下記の「適正な学校規模についての基本的な考え方」のとおり、ある程度の児童生徒数を確保することが大切であり、それが「適正」に繋がるものと考えているところです。</p> <p style="text-align: right;">記</p>

		<p>り良く変えていくことこそが大切で、それが「適正」ということではないか。</p> <p>(2) 一番問題なのは、①1クラスの児童の人数を30人以下にすること。②先生の多忙化解消、先生の人数を増やすことではないか。現場も親も、これを一番に望んでいるのではないか。ぜひ、この問題を解決してほしい。(市独自の予算を使ってでも)</p> <p>(3) 学校規模の問題は、少子化対策、日立市の未来のあるべき姿と切り離して考えることはできないと思う。今ある学校がより良くなり、そのことにより日立市が住みよい町になり、人口減少も緩やかに！そんな風になるよう、私も一人の市民として協力したい。</p>	<p>【基本方針（素案）の「適正な学校規模についての基本的な考え方」抜粋】</p> <p>学校は、子どもたちの確かな学び、豊かな心、そして健やかな体を育む教育の基盤となるものです。子どもたちが集団の中で、切磋琢磨しながら学習し、社会性を高めるとい学校教育の目的を達成するためには、本来、一定の児童生徒数が確保されていることが望ましいと考えます。</p> <p>また、教育機会均等の視点から、学校規模を標準化することを目指す必要があります。</p> <p>(2) ①については、No.13 (3) のとおり、財政状況が厳しい状況の中で、市独自で基準を設け、教員を安定的に雇用し続けることは現実的に難しい状況です。しかし、市民の皆さんの関心も高く、児童生徒の学習環境にも大きな影響を及ぼすことから、少人数学級の推進について、茨城県へ要望するとともに、本市の財政状況等踏まえながら市独自の推進策を検討していきたいと考えています。</p> <p>②については、学校規模を適正化することによって、教員数も一定数以上の確保することにつながることから、改善の一助になるものと考えています。</p> <p>(3) ありがとうございます。子育て世代の方は、できるだけ良い環境で子育てをしたいと願っていると思います。住む場所を決める要素は多様ですが、魅力ある教育を提供し続けることで、本市に住みたいと思ってくれる方が増えると思います。市民の皆さんとともに、そのような教育環境を整えられるように努めていきます。</p>
19	金沢小	<p>次の視点で考えてほしい。</p> <p>(1) 人口は確度の高い予測ができる。早く対策すべき。</p> <p>(2) 産業との関連も要配慮だ。分かりやすく言えば、日立製作所の将来予測が必要だ。</p> <p>(3) 財政の視点が大切だ。夕張のようにしたい、なりたいのか。「私(わたくし)の立場だ</p>	<p>子どもたちのより良い学習環境づくりに向けて、今できることにしっかり取り組んでいくことが大切であると考えています。</p> <p>学校の適正配置は、様々な要素が複雑に絡む困難な課題ですので、御提案いただいたような視点やアイデアを参考に、学校を取り巻く将来を展望しながら取り組んでいきます。</p>

	<p>け」の主張はやめよう。</p> <p>(4) 縦の統合を考えてもよいはずだ。場所をまずは統合するだけでよいはずだ。</p> <p>(5) 空き教室だらけが実態だ。この問題をなぜ放置してきたのか。怠慢である。</p> <p>(6) 空き教室が増えだしたとき、適正配置が必要と気づくはずだ。</p> <p>(7) 私は 1985 年には、後継育成の対応を考え実行してきたので気になる。少子化は 1947 年に母性保護を考えたときから始まった。</p> <p>(8) 私自身にも言えるが、寂れるような地域に住んだのは自己責任の面がある。</p> <p>-----</p> <p>以下のとおり提言する。</p> <p>少子化対策は喫緊の課題である。子供を産む女性増が絶対必要条件である。該当の方を増やすための助成措置をしましょう。そのために、</p> <p>(1) 幼稚園、小学校、中学校を縦統合する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金沢学区をモデルに、以後他地区でも実施する。 ・空き学校（校舎）等を民間に貸し出す。 ・体育館は、健康増進等に活用し医療等の費用削減を図る。茨城大学教育学部等と連携する。 <p>(2) 市議会議員の定数を減らす。当面 18 名程度に。</p> <p>(3) 市会議員の報酬を減らす。当面現行の半</p>	<p>(1) 施設の利活用等について御提案をいただきありがとうございます。各学校の個別具体的な計画は、平成 30 年度に策定予定の「基本計画」の中で明らかにする予定ですので検討の参考とさせていただきます。</p> <p>(2)(3) 関係課へ伝達いたします。</p>
--	---	---

	<p>分に。</p> <p>-----</p> <p>(1) 行政関係者も市民も後世に責任を持つ必要がある。基本方針（素案）概要版にある「日立市の児童生徒数」の実数と推計はほぼ正確といえる。ぜひ、2027（H39）年を見据えて計画を立てましょう。</p> <p>(2) よって、現在の考えで最適解を立案したら、それは不適切で怠慢といえる。先行を考えた計画立案をしましょう。</p> <p>(3) 先送りすればするほど、財政的裕度のない状態で対応策を考える必要が生じ、対応しにくくなる。自明の理である。</p> <p>(4) 日立製作所に地域貢献の余力はないと元社長が明言している（2016年（一社）茨城県経営者協会総会席上）。ということは、税収増は望みにくいということ。</p> <p>(5) 日本各地で「夕張」的状況の出現を危惧する。</p> <p>(6) 「台原中を他に統合する」等のうわさ話を徹底して防止願いたい。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金沢小3年生とのふれあい会に参加した。子供の数の減少を実感した。 ・何度も言おう。行政の対応が遅い。遅れている。責任の所在は（物言わぬ）市民にもあるが、行政の責任はもっとも重い。自覚 	<p>(1)～(5) 学校を取り巻く将来を展望しながら、計画づくりを進めていきます。</p> <p>(6) 根拠のないうわさ話は、児童生徒や保護者、地域の皆さんに不安を与えることとなります。学校適正配置に関する検討の進捗状況について適宜周知し、不安の解消に努めます。</p> <p>お寄せいただいた御意見をしっかりと受け止めながら取組を進めます。</p>
--	---	---

		<p>して挽回してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状のような、行きがかり的、成行きの対応をしていると、14～15万人を目指している人口は、短期間に10万人を切ると見ている。 ・5W1(2)H、重要／緊急／拡大度で対応するのが大切だ。 ・日立市の魅力作りの参考にしてほしい町は、糟屋郡粕屋町。 	
20	東小沢小	<p>基本方針が決まり、統廃合が行われるようになったら、早い時点でコミュニティ・スクールを組織してほしい。</p>	<p>コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）は、学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら子どもたちの成長を支える仕組みです。</p> <p>導入により、学校や子どもたちの教育に対する保護者・地域住民の理解が深まることで、学校と保護者等が相互に連携・協働する場面が増えるとともに、教育課程の充実につながる効果的な地域連携の取組が増えるなど、学校運営の改善が期待されています。</p> <p>本市においては、平成29年度現在、この制度を本格的に導入している学校はありませんが、会瀬小学校、駒王中学校で試行を行っていますので、その結果を踏まえ、地域が一体となって子どもの成長を支える仕組みとして導入を検討していきます。</p>
21	中小路小	<p>(1) 子供達に、廃校、クラス替えなどについてのアンケートをした方がいいのでは？ 大人の意見だけでは不十分だと思う。</p> <p>(2) 基本方針素案に「適正な学校規模を確保した場合の効果」にプラスの効果（メリット）しか書いてないが、マイナスの影響（デメリット）はないのか？ 友人が増えると書いてあるが、私自身の経験では、クラス替えによって、せつかくできた親友と離れてさびしい思いをした。</p>	<p>(1) No.4のとおりです。</p> <p>(2) 文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」では、統合により生じる課題として、以下の点などを挙げています。</p> <p>ア 統合や学区の見直しに伴い徒歩や自転車での通学距離が長くなる場合の通学路の安全確保</p> <p>イ 統合により学校規模が拡大することに伴う、環境の変化や新たな生活への児童生徒の戸惑いなどへの配慮</p> <p>ウ 統合に伴い、通学区域が拡大することや一部の地域から学校がなくなることにより、統</p>

	<p>(3) 市の税金の使い方を見直してほしい。人口減少を知っているのに立派すぎるアリーナと市役所を建てた。もっと子供達の教育にお金を使った方がいい。日立市の子供達の学力を上げてください。(校舎を建て直すこと、いい学習環境を整えること、メディア設備、パソコン教室など)</p> <p>(4) クラス替えで学力が上がるという言い方は疑問である。</p>	<p>合後の学校と地域との関係が希薄化することへの懸念</p> <p>エ 地域の防災拠点、児童生徒の放課後・土曜日等の活動拠点、地域における文化・スポーツの活動拠点としての側面、地域コミュニティの精神的支柱とも言うべき側面に対する配慮</p> <p>これらについては、現在策定中の「基本方針」の中で、学校の適正配置を進める際に留意していく事項として位置付けています。</p> <p>クラス替えに対する感じ方については、友達と離れてさびしいと感じたり新しい出会いを期待したりするなど、個人で感じ方は異なるようです。学校統合を経験した児童生徒に対し茨城県が行った調査（平成 23 年 1 月）では、「学校が統合して友だちが増えた。」という項目で、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童が 88%、「友達と仲良くなれるか心配したが、すぐに友達になれた。」という項目では、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童が 81%となっています。</p> <p>(3) 市税は、必要に応じて各分野に振り分けられています。今後とも、本市の将来を担う子どもたちの育成のために必要な教育予算の獲得に向けて努力していく考えです。</p> <p>(4) 御指摘のあった表現は、文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」において、他の先進自治体の事例から、期待できる効果の一つとして紹介されているものです。</p> <p>また、茨城県が行った調査（平成 23 年 1 月）において、「学級の人数が増えたことにより、今までより勉強をする気が出てきた。」という項目で、45%の児童が「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と答えています。また、54%の保護者が「良い意味で競争心が芽生え、子</p>
--	---	--

			どもの学習意欲が高まった気がする。」と感じているという結果もあります。
22	日高小	<ul style="list-style-type: none"> ・地域懇談会で、先生方の書類を削減してきたといていたが本当か。 ・今、数年前から小学校から中学校までのデータを全て記入する共通の書類ができた。高校受験まで使えるようだが、そういう新たな書類が先生の負担を増やすのではないか。 	<p>本市では、平成 29 年度から全校に導入した校務支援システムによって、教員の「業務の軽減と効率化」を進めています。</p> <p>このシステムを運用することで、例えば、成績に関する情報データを通知表や指導要録に自動的に転記することが可能になるため、転記にかかる時間や転記ミスを著しく減少させることができます。教員の作業的負担だけでなく、精神的負担の軽減にもつながるものと考えています。</p>
23	中小路小	<p>(1) 統廃合は、どこの学校がされるのか。</p> <p>(2) 統廃合される学校は決まっていて、話は進んでいるのか。</p> <p>(3) 早ければ3年後に！という話を聞いたが、統廃合するのではなく学区を見直す方法で考えることはできないか。</p>	<p>(1) (2) No.1(1)のとおりです。</p> <p>(3) No.13(4)のとおりです。</p>
24	会瀬小	<ul style="list-style-type: none"> ・規模の小さい学校が適正な人数になることで、得られる効果が非常に高いことがよく分かった。 ・小中学校に子どもを通わせていると、人とのコミュニケーションの取り方が大事なのを感じるので、子ども時代はしっかり仲良くして、けんかもして育ってほしい。 <p>(1) 適正配置後の通学がどのくらいの距離になるのか、かかる時間、通学方法、安全面などが気になる。遠い場合は一般のバスを利用するのか、スクールバスなのか、かかる費用はどれくらいで、どこが負担するのか。</p> <p>(2) 友達とおしゃべりしながら自分たちのペースで歩いて帰るのも貴重な時間だと思</p>	<p>(1) No.13(11)のとおりです。</p>

		<p>っていたので、通学で同じような時間が過ごせればいいと思う。</p> <p>(3) 中学校の部活は種類が少ない中から選ばないといけなく、悩む子もいるようなので、最初から別の中学と合同の部活を作って種類を少しでも増やせればいいと思う。</p>	<p>(2) 御意見にあるとおり、登下校の時間も子どもたちの成長を促す大切な時間と考えます。安全に楽しく登下校できるよう、十分な安全確保に努めます。</p> <p>(3) 部活動の種類が少なくなってしまうことは、学校の小規模化に伴う課題の一つです。 その対策として、現在も、他校との合同チームを作り試合に参加している事例はあります。しかし、大会によっては、チーム編成に関する規定から参加が制限されてしまう場合もあり、希望どおりに部活動に取り組めない生徒も少なくありません。 学校の適正配置を進め、ある程度の学校規模を確保することで、部活動の種類が増え、選択肢を増やすことにつながるものと考えます。</p>
25	会瀬小	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な学校規模を確保した場合の効果は、資料を読んで頷けることも多い。しかし、不安な点も多い。 ・現在の学区の外の学校に新たに通うことになれば、距離が増え、通学の負担が大きくなる。 ・部活で帰宅が遅くなる中学生は、勉強時間も睡眠時間も減る。 ・冬は暗い道を長い距離歩かなければならず、危険も増える。 ・スクールバスは検討されているのか？ または、公共のバスの利用が認められるのか？ ・自転車通学も考えられるが、日立は坂が多く、交通量も多いので安全とは思えない。 ・それから、PTA活動も学校ごとに違うので、どのように調整していくのか。 	<p>No.13(11)のとおりです。</p>

			<p>統合することになった場合は、統合前の事前準備として、新しい学校の名称、校歌、通学路などについて、関係者による協議・調整が必要です。他市の事例では、協議・調整のための組織を設けることが一般的です。PTAの組織運営等についても、その中で調整していくことになると考えています。</p>
26	会瀬小	<p>(1) 学校が遠くなった場合は、スクールバスが出るのか。</p> <p>(2) また、吸収された側の学校行事はどういう扱いになるのか。</p>	<p>(1) 学校統合による通学距離の延長で、子どもたちに大きな負担を強いることになってしまう場合は、スクールバスの運行などについても検討が必要と考えています。ただし、スクールバスの導入検討に当たっては、他市の事例から子どもたちの体力が低下するなどの課題も出ています。保護者と協議しながら、慎重に進めていくことが必要と考えています。</p> <p>(2) 統合する各学校の行事については、統合後の新しい学校にできる限り継承されるよう、児童生徒、保護者、地域の皆様と十分な協議を重ねていく考えです。</p>
27	会瀬小	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールのモデル校である会瀬小では、現在、学校・地域・保護者の連携を強化中であるが、統廃合となれば、それが崩れてしまう。 ・他学区でも独自の行事や特色があるがどのようにすり合わせていくのか。 ・子どもたちが新しい環境になじめるのか親として心配である。 ・地域の避難場所はどのようになるのかなど、統合による不安や心配な点は多々ある。 ・しかし、今後、児童数が減少していく中で、学習面、生活面、学校運営面などのデメリットを考えると統合していくことは理解できる。 ・親として、少しでも子どもの心の負担減らし、新たな環境にスムーズになじめるような環境作りをしていただきたい。 	<p>現在、取り組まれているモデル事業の成果は、仮に学校が統合されても、統合後の学校運営の大きな支えになると考えます。</p> <p>No.26(2)のとおりです。</p> <p>No.13(8)のとおりです。</p> <p>No.13(9)のとおりです。</p> <p>お寄せいただいた思いや願いを、しっかりと受け止めながら取組を進めます。</p>

28	会瀬小	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針には賛成である。少なくとも、現在の会瀬小、助川中程度の人数がいる方が子どもたちには良い。 ・通学手段は、安全面を考慮していただきたい。 ・中学進学時に、中高一貫校や水戸の中学を受験する子も多く、また学区外に変更する子もいる。今後、さらにそういう子が増えることも考えていただきたい。 	<p>通学に関しては、多くの保護者から不安な声や安全対策への要望が寄せられています。</p> <p>学校統合に当たっては、通学距離の延長による登下校時の十分な安全確保策が必要と考えています。現在策定作業を進めている「基本方針」の中でも、取組を進める上での留意事項の一つとして、明確に位置付けていく考えです。</p> <p>具体的な対応策としては、現在、道路の管理者、警察、市が共同で設置した「通学路安全推進会議」が中心となって、毎年通学路の安全点検を行いながら、危険箇所を改善していることから、この仕組みを活用し、学校、保護者、地域の皆さんと連携・協力しながら、危険箇所を点検し、安全のための改善を図っていく考えです。</p> <p>御指摘の点も含めて、将来の学校を取り巻く環境を展望し、検討していく考えです。</p>
29	会瀬小	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化に伴い児童生徒数や学級数が減っているため、学校の統合も視野に考えていかなければならない。 ・小規模校のメリットは、①保護者間で協力体制が築きやすい。②子どもたちの交友関係なども把握しやすい。③PTA行事に積極的に参加しようとする意識が高い。などが挙げられる。 ・統合した場合、メリットはなくなり、逆にデメリットとして、バス通学になった場合の子供の体力低下などが心配される。 ・適正な学校規模を確保した場合の期待だけ 	<p>学校の規模によって、それぞれメリット・デメリットがあります。統合によって、ある程度の学校規模を確保できた場合、文部科学省の手引では、他の自治体の事例から、①多様な意見に触れる機会が増える。②切磋琢磨する環境の中で学習意欲が向上する。③友人が増える、男女比の偏りが少なくなる。などが期待できるとされています。</p> <p>一方で、御意見のとおり、通学距離が長くなることなどは、学校統合に伴うデメリットとして挙げられます。このようなデメリット等への対応については、現在策定作業を進めている「基本方針」の中で、取組を進める上での留意事項として位置付けるなど、しっかりと考えていきます。</p>

		<p>でなく、きちんとデメリットの方も考えていかななくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後に、統合で通学時間や距離が長くなる場合、どうやって子どもたちを守るのか考えていただきたい。 	<p>No.13(11)のとおりです。</p>
30	<p>塙山小</p>	<p>(日立市の基準について)</p> <p>これからも少子高齢化は加速していくと思う。5～10年後を見据え、適正な学校配置計画をお願いしたい。また、区域再編には、コミュニティとの調整も必要と思う。</p> <p>(留意事項について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある程度の方針が示された段階で説明会を行った方が良いと思う。(何校に削減するか、学区再編の最重要地区はどこか、など) ・地域によって、意識調査にあるように適正配置における意識は低いように思われる。5～10年後のことまでは考えていないと思う。 <p>(保護者との意見交換の方法等について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四半期ごとに行う市P連の運営委員会。 ・地域との兼ね合いから、別途、小学校区単位で地域懇談会を開催。 <p>(その他)</p>	<p>(日立市の基準について)</p> <p>学校適正配置の取組は、将来にわたって、子どもたちのより良い学習環境を整備するために進めているものです。お寄せいただいた想いや願いをしっかりと受け止めながら取組を進めます。</p> <p>また、御指摘のように、特に小学校区は地域活動エリアと密接に関連しているので、学校の統合や学区見直しによる影響が少なからず発生します。適正な学校配置計画の検討に当たっては、このようなことも勘案しながら進めていきたいと考えています。</p> <p>(留意事項について)</p> <p>各学校がどうなるかについては、平成30年度に策定予定の「基本計画」の中で明らかにする予定です。策定段階においても、保護者の皆さんや地域住民の皆さんと十分な意見交換を行っていきたいと考えています。</p> <p>(保護者との意見交換の方法等について)</p> <p>P T A 役員の立場としての御提案ありがとうございます。これらの御提案を参考に、有意義な意見交換の場を設けたいと考えています。</p> <p>(その他)</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・児童数の多寡は、地域性もあり、メリットでもありデメリットでもある。 ・学校統合に関する他市町村の失敗例や成功例を教えてほしい。 	<p>意見交換の際には、他市町村の事例などを紹介しながら、子どもたちのより良い学習環境の在り方について、市民の皆さんと共に考えていきます。</p>
31	東小沢小	<p>(留意事項について)</p> <p>廃校後の学校跡地の活用・整備方法も合わせて説明してほしい。野ざらしで放置されると治安の悪化が懸念される。</p> <p>(保護者との意見交換の方法等について)</p> <p>授業参観やPTAの会議等、保護者が集まる機会に合わせて説明会を開くと良いと思う。</p> <p>(その他)</p> <p>H30年度内に方向が決まると、廃校になる学校へは次年度から新生が入らない恐れがある。決定、公表、移行の時期は、慎重に検討してほしい。</p>	<p>(留意事項について)</p> <p>仮に廃校となった場合の学校施設、或いは跡地の利活用については、地域の皆さんとの意見交換を十分に行いながら検討していきたいと考えています。施設の老朽化による事故や犯罪の誘因にならないよう、適切に対応していきます。</p> <p>(保護者との意見交換の方法等について)</p> <p>PTA役員としての御提案ありがとうございます。これらの御提案を参考に、有意義な意見交換の場を設けたいと考えています。</p> <p>(その他)</p> <p>本市では、住所で就学する学校を指定しています(学区制)が、各家庭の事情により指定学校の変更も認めています。御指摘のような事由での就学先の変更は、認められるものではありません。</p> <p>平成30年度に策定予定の「基本計画」では、できる限り具体的な内容をお示ししたいと考えているので、「いつ、どの学校が、どうなるか」を公表することになりますが、指定学校の変更については、従来どおり、申請の内容を審査した上で適正に対応していきます。</p>
32	諏訪小	<p>(日立市の基準について)</p> <p>今の生徒の数に対して学校が多い。統合について、早期に決めていくべき。建替をした学校は、統合の対象にならないのか。</p> <p>(留意事項について)</p> <p>統合対象になっている学校には、早めに連絡がほしい。</p>	<p>(日立市の基準について)</p> <p>学校の適正配置は、基本方針に基づいて検討を進めます。校舎が新しい学校についても、今後、小規模化が進行する見込みが大きい場合もあるため、基本方針で示した考え方に基づき多面的に検討を進めます。</p> <p>(留意事項について)</p> <p>平成30年度に策定予定の「基本計画」で、具体的な内容をお示ししたいと考えています。</p>

		<p>(保護者との意見交換の方法等について)</p> <p>学校を通して各家庭に通知し、意見がある人が参加できるようにしてほしい。</p>	<p>(保護者との意見交換の方法等について)</p> <p>P T A 役員としての御提案ありがとうございます。これらの御提案を参考に、有意義な意見交換の場を設けたいと考えています。</p>
33	山部小	<p>(日立市の基準について)</p> <p>学校の適正規模の維持が崩れつつある状態がみられて、統廃合を考えることになった。現状で安易に配置するには大変な問題があると思う。慎重に取り組んでほしい。</p> <p>(留意事項について)</p> <p>最近よく耳にするが、先生方の専門性が問われている。専門的に勉強してきた専門の先生の数が少ない状況で教員採用しているのが現状ですか？代用教員が多いのが現状ですか？この様な事が原因で統廃合が進められているのか？</p> <p>(保護者との意見交換の方法等について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート等で現状を知る事、考える事ができると思う。 ・日立地区のどの辺が統廃合が必要な地域なのか？すなおに話し合う事が必要と思う。 	<p>(日立市の基準について)</p> <p>将来の学校を取り巻く環境を見据えて、保護者や地域住民の皆さんと意見交換しながら、丁寧かつ慎重に取り組んでいきます。</p> <p>(留意事項について)</p> <p>「先生が足りない」ことが、学校の統廃合の原因になることはありません。</p> <p>公立学校の教員採用については、茨城県教育委員会が計画的に行っています。中学校の専門教科についても必要数を採用しています。教員の出産・育児や病気療養、研修などにより学校での勤務を離れる場合には、代わりの講師を配置していますが、専門教科の異なる講師を配置することはありません。(国語の教員には中学校国語の教員免許を持つ者が補充講師として配置されます。) 同様に、小学校の場合も小学校教員免許を持つ者が配置されます。</p> <p>(保護者との意見交換の方法等について)</p> <p>P T A 役員としての御提案ありがとうございます。これらの御提案を参考に、有意義な意見交換の場を設けたいと考えています。</p>
34	東小沢小	非公開希望	